

与謝野町公共施設白書

施設カテゴリー編



図書館

9 図書館

その1 施設の概要

与謝野町の図書館は、旧町の中央公民館の1階玄関付近に設置されており、知遊館（岩滝）にある図書館を本館として、加悦分室（加悦地域公民館内）、野田川分室（中央公民館内）があります。

【図書館施設一覧】

施設名	所在地	面積（㎡）		建築年	運営形態
		敷地	延床		
与謝野町立図書館	岩滝2271番地	-	601.0㎡	H13	直営
図書館加悦分室	加悦451番地2	-	122.6㎡	S50	直営
図書館野田川分室	四辻142番地1	-	122.7㎡	S57	直営
合計			846.3㎡		

【施設位置図】



その2 施設の物理的状況

施設の老朽化の状況はそれぞれが配置された施設によります。

図書館本館・・・知遊館

加悦分室・・・加悦地域公民館

野田川分室・・・中央公民館

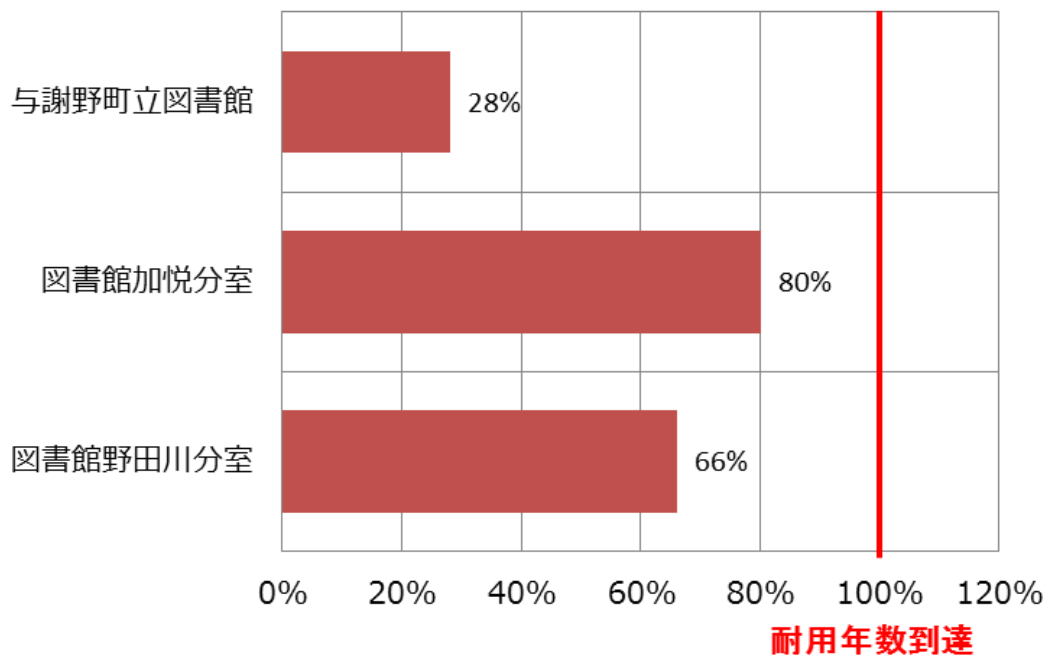
① 老朽化の状況

【図書館老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
与謝野町立図書館	鉄筋コンクリート造 3 階建	H13	H 63	28%	-
図書館加悦分室	鉄筋コンクリート造2階建	S50	H 37	80%	-
図書館野田川分室	鉄筋コンクリート造2階建	S57	H 44	66%	-

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超える場合は耐用年数超過です。

※耐用年数は鉄筋コンクリート造は50年を想定しています。



老朽化率については、配置されている施設（中央公民館等）と同じです。

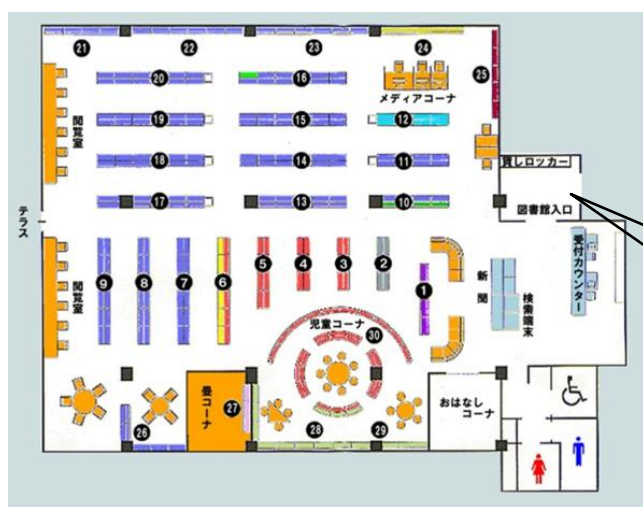
② 設備の状況

■図書館の規模（その1 配置図）

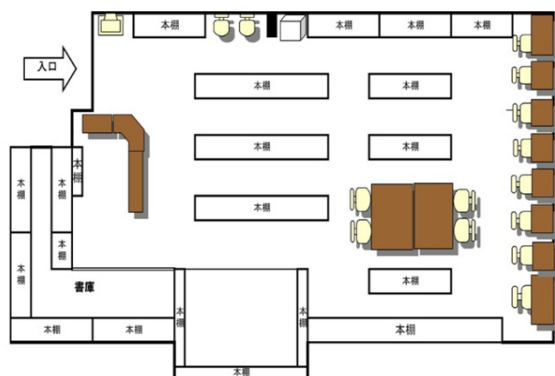
各図書館内部は以下の配置図のとおりです。

●与謝野町立図書館

低書架が多く、書架間も車いすがゆとりをもって通れるスペースがある一方、開架スペースにおける収容可能冊数は限られ、現在ほぼ飽和状態です。



601.0 m²



●図書館加悦分室

蔵書に対して全体的に書架が不足している状態でありま
す。収容スペース確保のため蔵書の一部（古い辞書辞典
類）を本館書庫へ移管して対応しています。

122.6 m²

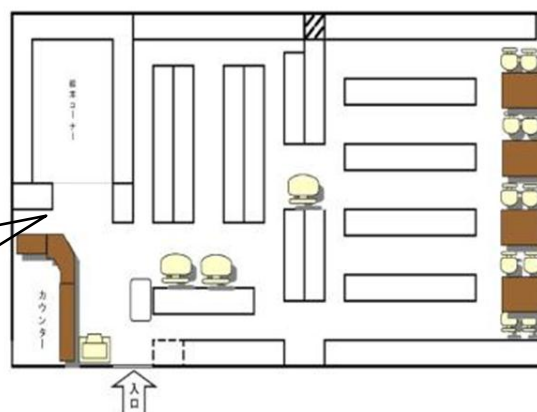


●図書館野田川分室

年々増える蔵書に対して、書庫も飽和状態で、
書架の追加購入などで対応していますが、全体的
にスペースが不足しています。



122.7 m²



※与謝野町内の図書館の本なら、どの図書館でも借りることが出来、どの図書館でも返すことができます。

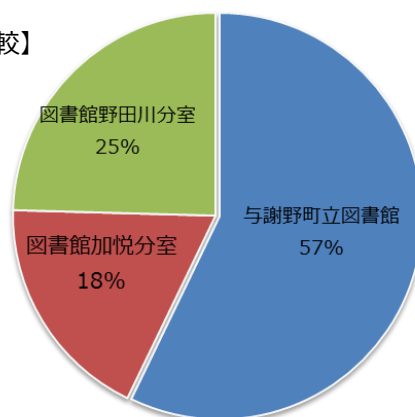
■図書館の規模（その2 蔵書数）

各図書館の蔵書数は以下のとおりです。与謝野町立図書館を本館としており、蔵書数で比較すればやはり本館が多くなっています。

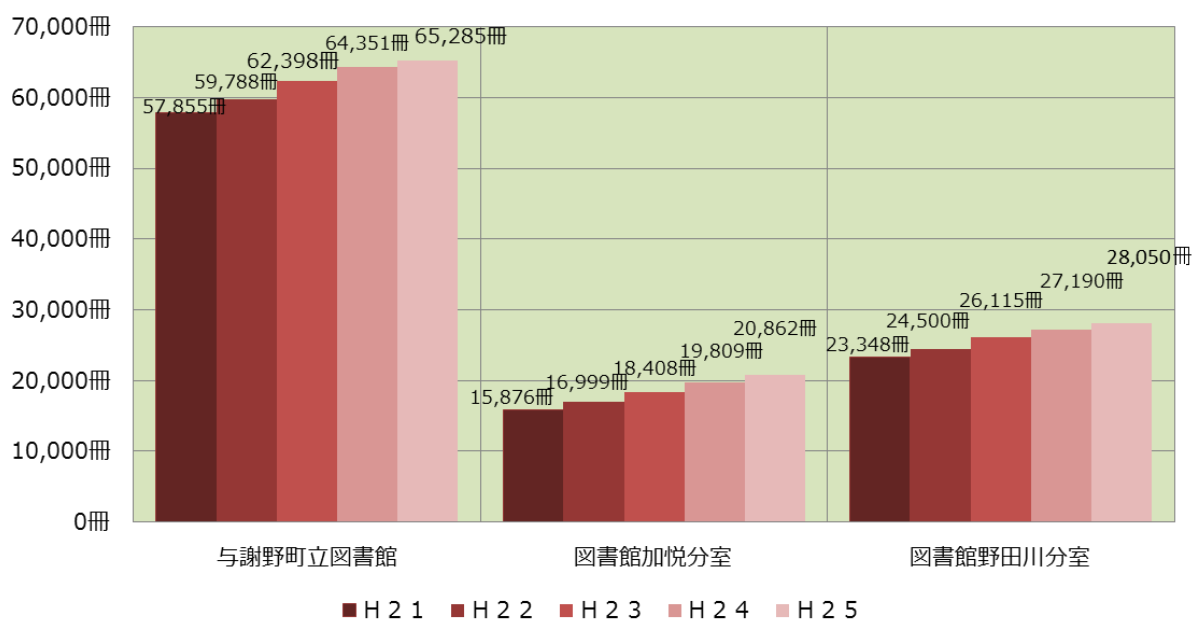
【図書館蔵書数推移表】〈視聴覚資料、雑誌を含む全資料数〉

施設名	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5
与謝野町立図書館	57,855冊	59,788冊	62,398冊	64,351冊	65,285冊
図書館加悦分室	15,876冊	16,999冊	18,408冊	19,809冊	20,862冊
図書館野田川分室	23,348冊	24,500冊	26,115冊	27,190冊	28,050冊
合計	97,079冊	101,287冊	106,921冊	111,350冊	114,197冊

【図書館蔵書数割合（H25 蔵書数で比較）】



【図書館蔵書数推移表】



③ 図書館のバリアフリー状況

図書館のバリアフリー化状況は、どの館も中央公民館、地域公民館に設置されているため、概ねバリアフリー化に対応しています。

施設名	バリアフリー化						
	身障者用	車いす用	自動ドア	手すり	点字 ブロック	車いす用	
	トイレ	スロープ				エレベーター	階段昇降機
図書館	○	○	○	-	○	○	-
図書館加悦分室	○	○	△	-	○	-	○
図書館野田川分館	○	○	△	-	-	-	-

※自動ドア「△」になっている加悦、野田川分室は建物玄関に自動ドアを設置し分館入口は引き戸になっています。

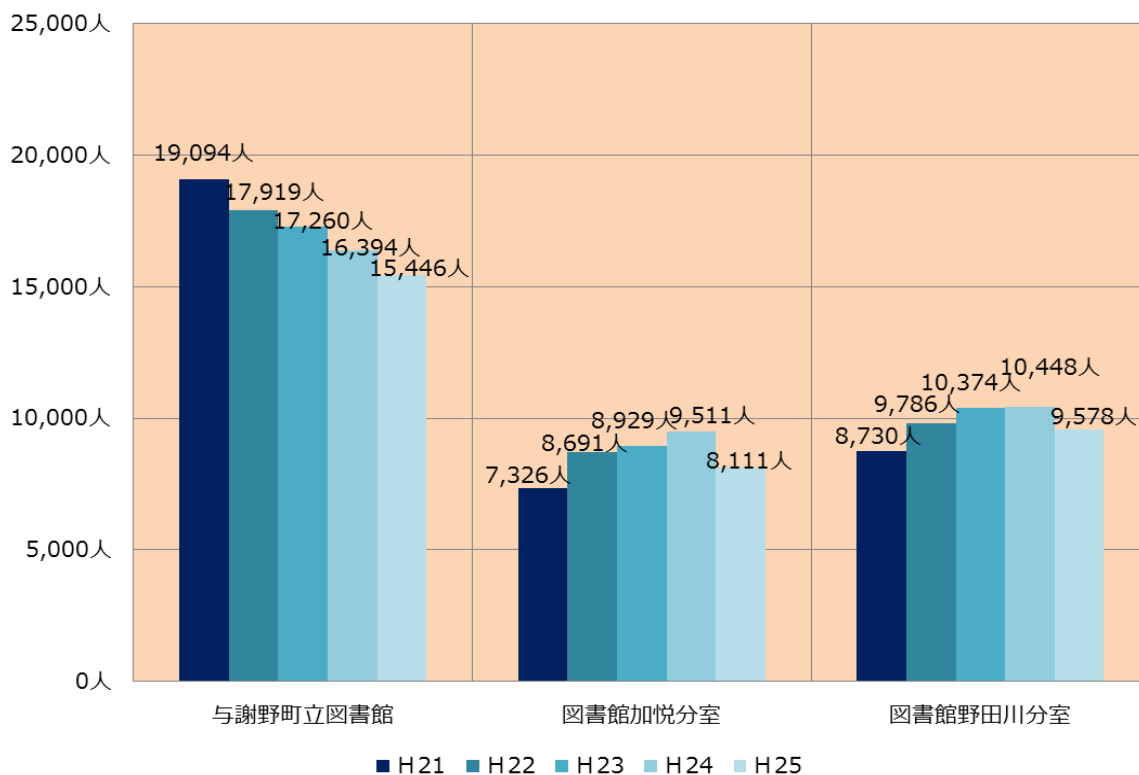
その3 施設の利用状況

図書館の利用状況の推移は以下のとおりです。利用者の利便性を勘案し平成 24 年 7 月に貸出冊数の上限を従来の 5 冊から 10 冊に引き上げました。その結果平成 24 年度には利用者は微減したものの全体では 2 万冊以上の貸出冊数の増加につながっています。

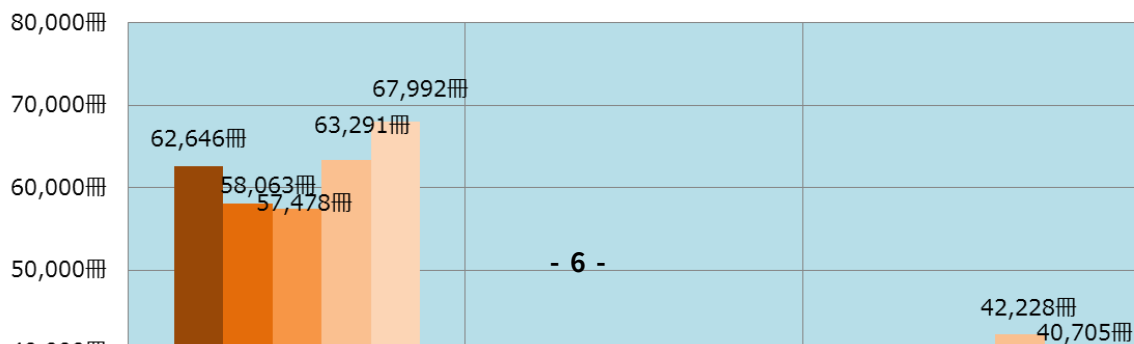
【図書館利用状況推移】

施設名	項目	H21	H22	H23	H24	H25
与謝野町立図書館	利用人数	19,094人	17,919人	17,260人	16,394人	15,446人
	貸出冊数	62,646冊	58,063冊	57,478冊	63,291冊	67,992冊
図書館加悦分室	利用人数	7,326人	8,691人	8,929人	9,511人	8,111人
	貸出冊数	21,921冊	26,071冊	28,209冊	36,654冊	33,579冊
図書館野田川分室	利用人数	8,730人	9,786人	10,374人	10,448人	9,578人
	貸出冊数	29,968冊	32,697冊	35,760冊	42,228冊	40,705冊
合計	利用人数	35,150人	36,396人	36,563人	36,353人	33,135人
	貸出冊数	114,535冊	116,831冊	121,447冊	142,173冊	142,206冊

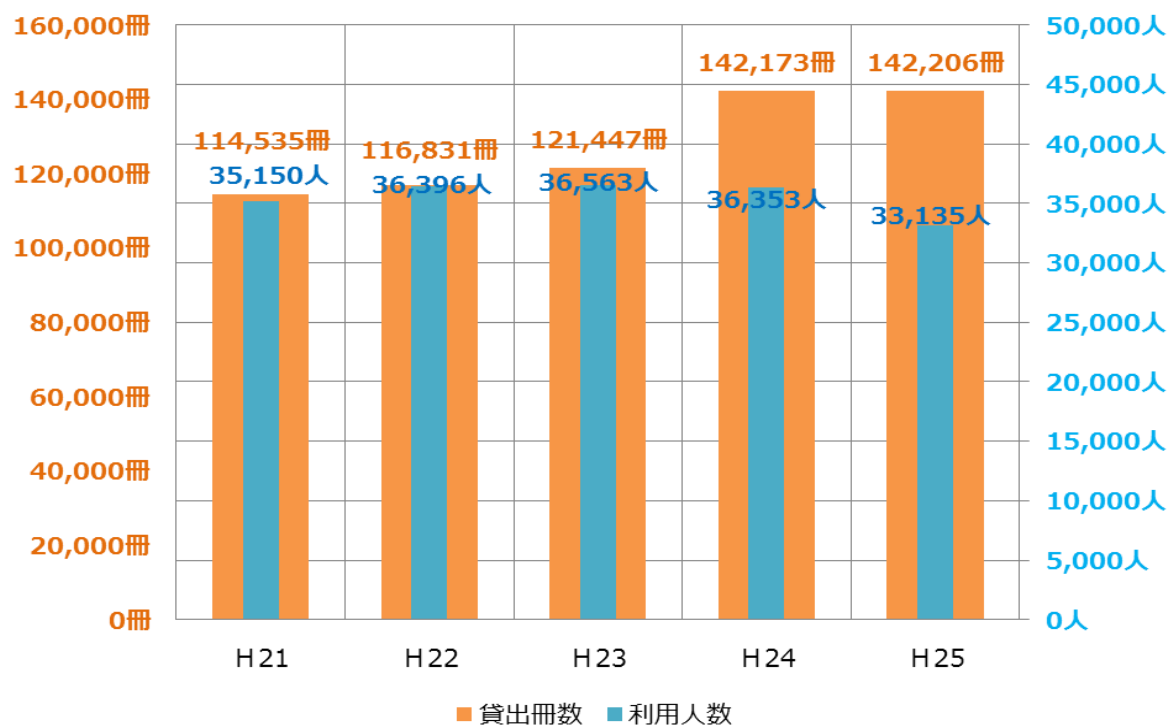
【図書館利用人数推移グラフ（図書館別）】



【図書館貸出冊数推移グラフ（図書館別）】



【図書館利用状況推移グラフ（全図書館）】



その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

図書館の管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

【図書館管理・運営コスト一覧】

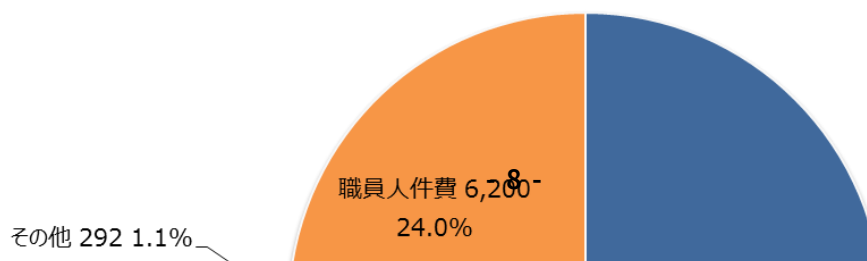
(単位：千円)

項目	与謝野町立 図書館	図書館 加悦分室	図書館 野田川分室	合計
賃金	7,699	2,916	3,118	13,733
光熱水費・燃料費	0	0	22	22
通信料・手数料	0	0	41	41
使用料・賃借料	372	0	86	458
消耗品費	630	63	113	806
備品購入費	1,717	853	915	3,485
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	0	31	0	31
委託料	740	0	0	740
指定管理料	0	0	0	0
その他	268	12	12	292
合計	11,426	3,875	4,307	19,608
参考：職員人件費	6,200	0	0	6,200

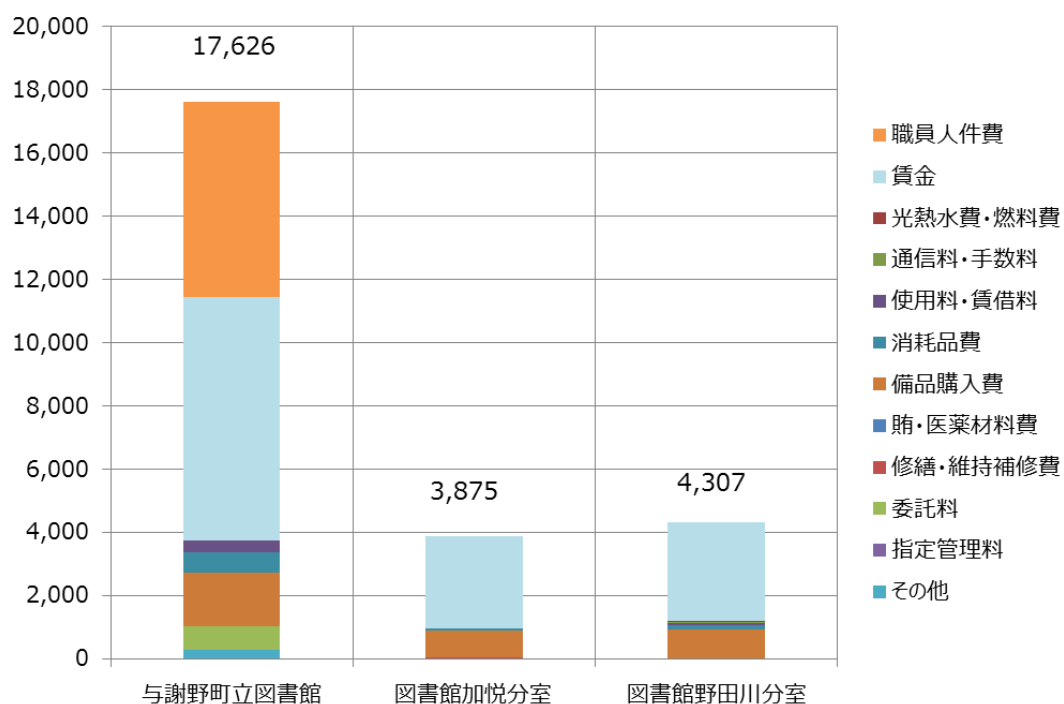
※平成25年度実績額です。

※光熱水費・通信料は公民館部分に包含されています（野田川分室を除く）

【図書館管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



【図書館管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



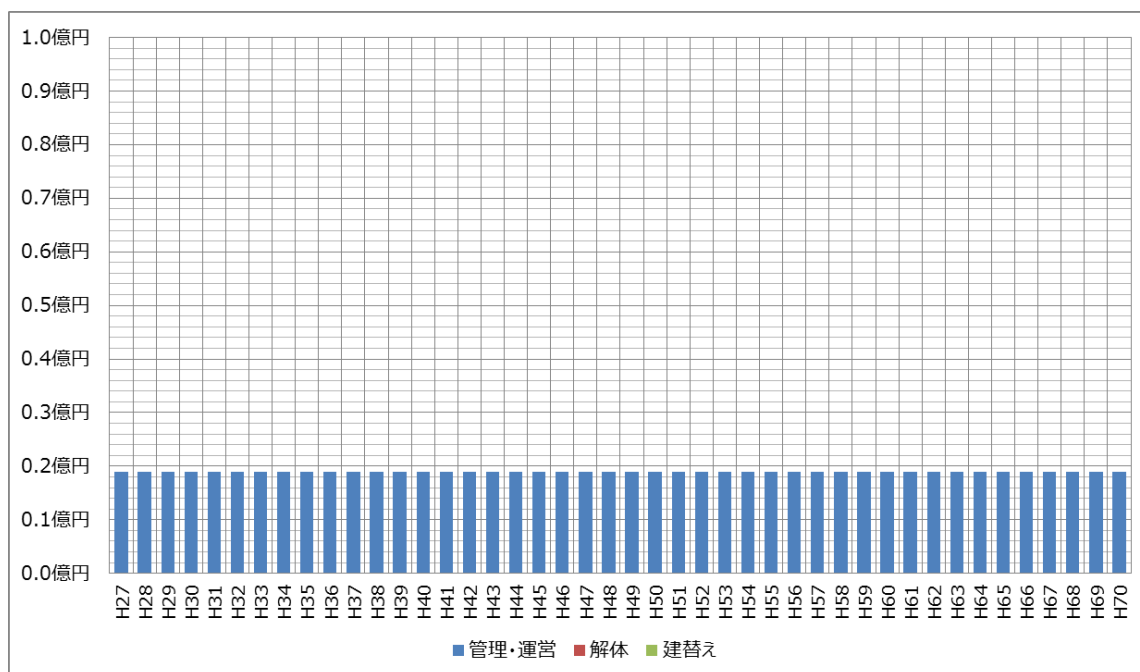
図書館の管理・運営コストで大きな割合を占めているのは、賃金です。ついで図書購入費である備品購入費となっています。光熱水費等については図書館が設置されている公民館施設に含まれています。

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

設置された建物の建替え時に建替えることになります。別カテゴリー「大規模集会施設」の整備コストの中に含まれますので、このカテゴリーでは示しません。

管理・運営コストの推移は以下のとおりです（平成 25 年度実績をベースに横置き）。

【図書館将来コスト推移表】



コスト総額約 8.4 億円（整備 0 億円、解体 0 億円、管理・運営 8.4 億円）

その 5 まとめ

1 現状・課題

●建物状況

図書館の建物状況については、設置されている中央公民館等によりしますので図書館単独で言及はできません。特筆すべきことは、与謝野町立図書館は知遊館建設当時から 1 階に設置されていましたが、2 分室についてはもともと 2 階に設置されていた図書館を 1 階に移設した経過があります。利用される方々の利便性に配慮した整備を行ってきました。

●防災状況

設置されている中央公民館等の建物の状況によるところですので、ここでは言及しません。

●利用状況

利用状況は全体で見ると平成 23 年度から 24 年度には全館で 2 万冊以上の増加、それ以降は貸出し人数が減少、貸出冊数は微増しています。

比較的新しくて面積も広く設備や蔵書が揃っている与謝野町立図書館の利用が一番多いですが、各分室についてもネットワーク化による蔵書の有効活用をはじめ、本棚の増設や 1 階への移設（加悦分室）などの環境整備を図ったことにより、貸出数は増加しています。

●コスト状況

管理・運営コストについては、賃金の割合が高くなっています。図書購入費以外に目立った支出がなく、賃金の割合が高い印象を受けますが、実際の臨時職員数は与謝野町立図書館 5 人、加悦分室 4 人、野田川分室 4 人であり、現状のままの管理・運営を行うには必要人数であると考えます。

●現状のまとめ（今後の展望も含めて）

図書館は建物だけで見た場合、どうしても設置されている中央公民館などの老朽化状況によるところ大きくなります。特に中央公民館は老朽化が激しく、近い将来、野田川地域の公民館の在り方を検討していかなければなりません。

一方で、直営のままでの管理・運営については、他の合併市町の例を見ると、規模の小さな図書館の運営を地域住民が担ったり、指定管理や民営化など民間のノウハウを取り入れて運営を行っている事例もあります。

